

自然を活用した東京都版保育モデル

【概要報告】

モデル事業実施目的

- 自然の中での体験や自然環境を活用しての教育は、子供の主体性や想像力、思考力、コミュニケーション能力などに代表される非認知能力を養うために効果的であるということを踏まえ、保育所等において、自然を活かした保育活動を通じて幼児教育がさらに充実することを最終的な狙いとしている。
- 東京都の特性を活かし、より効果的な取組となるよう、東京都内の自然環境を活用した東京都版保育モデルを作成することを目標として事業を実施した。

令和2年度モデル事業の取組

- 令和2年度は以下の内容について検討し、取組を行った。

モデル事業の 拡大・深耕・多様化	昨年度同様の活動継続
	より季節性を考慮した活動
	都心部での実施
	対象年齢の拡大
自然を活用した保育の 普及・啓発促進	普及・理解促進のための情報発信
	自然を活用した保育に関する事例集の作成
人材育成・基盤整備	研修体系・プログラムの検討
効果の把握・検証	保育士の意識変化、それに伴う子供の様子の変化の把握
	子供の中長期的な変化・成長、日常への影響の把握

モデル事業実施対象

- 本モデル事業では、以下の対象施設で実施した。

	都心	都心近郊～郊外
幼児	本村保育園（港区） <small>本年度実施</small>	せせらぎ保育園（清瀬市） <small>令和元年度実施</small> まちの保育園小竹向原（練馬区） 南千住七丁目保育園（荒川区）
乳児		せせらぎ保育園（清瀬市） まちの保育園小竹向原（練馬区） <small>本年度実施</small>

【せせらぎ保育園（清瀬市）でのモデル活動の様子・活動を通じた変化】

初回の活動



シートの上で周囲を観察



石段を見つけて上り下り

2回目の活動



斜面をお尻で滑り降りる



葉っぱをほかの子に

3回目の活動



どんぐりや木の実探し



でこぼこ道を楽しむ

丘を上り下り



【子供の様子】

- ・ 除所の行動範囲が広がり、それぞれが自ら遊びを始めることが多くなった
- ・ 見つけたものを言葉や身振りで伝えようとする様子が見られ、コミュニケーションの面でも成長の兆しが見られた

【保育者の意識・認識】

- ・ モデル事業を通じて改めて自然の活用を意識するようになった
- ・ 何もしていないようでも、その子なりに自然を感じ、楽しんでいると感じるようになった
- ・ 日々の子供の様子、周辺の活用できる資源を保育者同士で共有することの重要性を改めて認識した

【まちの保育園小竹向原（練馬区）でのモデル活動の様子・活動を通じた変化】

初回の活動



葉っぱの感触を楽しむ



園庭の水タンクで遊ぶ

2回目の活動



日向のぬくもりを感じる



それぞれが自分の遊びを展開

3回目の活動



木の音の違いを楽しむ様子



くぼ地を海に見立て釣りがっこ

【子供の様子】

- ・ 数回の活動でも遊びの広がりが見られ、見立て遊びも発展してきた
- ・ 活動を重ねるごとに、保育士が関与しない子供たちだけの遊びが増えた
- ・ 環境やほかの人との関わりを通じて自分の興味を探索する様子が見られた

【保育者の意識・認識】

- ・ 事業アドバイザーとの振り返り等を通じて、日々の自身の活動に自信を持って取り組むことができるようになった
- ・ 乳児ならではのリスク管理の重要性やそのための視点についても再確認することができた

【本村保育園（港区）でのモデル活動の様子・活動を通じた変化】

3歳児

初回の活動



斜面を繰り返し
上り下り

周回ルートでさまざまな発見



2回目の活動



丸太での遊び



落ち葉で
お風呂づくり



木登りにチャレンジ

3回目の活動



強い風を体で感じる

落ち葉を放って、走りこむ



4歳児・5歳児

初回の活動



制作に使う枝集め



集めた自然物で見立て遊び

2回目の活動

思い思いの遊びを楽しむ



活動をみんなで振り返り

3回目の活動

さまざまな起伏を上り下り



小川に葉っぱを流してみる

【子供の様子】

- これまでは鬼ごっこをすることも多かったが自然に興味を持つようになり、新たな一面が見られた
- 期間が限られた取組であったが自ら自然物に触れようとする機会が増えた
- 自然物の集めたり、それを持ち帰ることを認めるようになると、使い方やルールについても自分たちで考えるようになった
- 人工物がない場所でも、それぞれが遊びこめる力がつき、遊びの広がりが見られた

【保育者の意識・認識】

- 体を使って体幹の成長を促すことを考えた際も、人工物ではなく自然物も効果的に活用できることが改めて認識できた
- 子供が自ら遊びの世界観を広げることができるよう、子供の興味・関心を捉え、それをいかにサポートできるかということに一層留意して保育を行うようになった
- これまでは怪我や周辺の方との関係などから活動に制約もあると考えていたが、活動を広げることで遊びの内容も広がり、活動も活発になったと感じた
- 通り道も資源として捉えるなど、園の外での活動についての意識・見方が変わってきた
- 子供主体で、自由に遊びを展開する様子を見ることができ、成長を促すための視野が広がった

